

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑮ 特許出願公開

⑰ 公開特許公報 (A)

昭58—168447

⑯ Int. Cl.³
B 21 D 53/00
E 04 D 13/10

識別記号

厅内整理番号
7109—4E
6922—2E

⑯ 公開 昭和58年(1983)10月4日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

④ 雪止め金物の製造法

⑤ 特 願 昭57—54117
⑥ 出 願 昭57(1982)3月31日
⑦ 発明者 山根良支
豊中市新千里西町1丁目1番12

号ナショナル住宅建材株式会社
内
⑧ 出願人 ナショナル住宅産業株式会社
豊中市新千里西町1丁目1番12
号
⑨ 代理人 弁理士 清原義博

明細書

1. 発明の名称

雪止め金物の製造法

2. 特許請求の範囲

(1) 水平板の中央部から結合端部よりにT字板を切り起こし、この水平板より幅が略短い停止板の中央部から結合端部よりに同じくT字板を切り起こし、水平板の結合端部の幅方向両端部に間隙を残して水平板に対し垂直状に停止板を結合端部相互で熔着し、次いで水平板と停止板のT字板を引き起こして相互に結束し、最後にアングル材を水平板と停止板の結合部内方に直交状に挿入し、このアングル材を停止板に鉄線で結束しこの結束時に水平板下方に鉄線が巻回されないようにしてなる雪止め金物の製造法。

3. 発明の詳細な説明

この発明は雪止め金物の製造法に関し、その目的は積雪地帯の家屋の屋根上部に使用する雪止め金物の簡易で製造工数の少ない雪止め金物の製造法の提供にある。

従来、第1図(A)(B)に示す如く、水平板(1)上に停止板(2)を垂直状に連接し、この水平板(1)後方にA方向からの荷重に対する補強リブ(3)を取り付けて更にこの停止板(2)にアングル材(4)を鉄線で結束して取り付け、このアングル材(4)で雪止めを行なつていた。

しかしながらこのような第1図(A)(B)に示す従来例の雪止め金物は、水平板(1)と停止板(2)および補強リブ(3)は溶接接合であるため組み立て手間がかかると共に現場においてはアングル材(4)を停止板(2)のボルト孔(2a)に鉄線(5)を通し固定する必要があるから工数がかかるという欠点があつた。

この発明法は以上のような欠点を解消せんとしてなされたもので、以下図面に基づいてこの発明の一実施例を説明する。

第2図(A)(B)において、(6)は水平板、(7)はこの水平板(6)の中央部から切り起されたT字板、(8)は停止板で、停止板(8)の中央部から水平板(6)と同様T字板(9)が切り起こされてなる。

このT字板(9)は水平板(6)及び停止板(8)において

結合端部(6a),(8a)に向つてT字バーが対向するよう切り起こされてなる。

第2図(A)拡大図に示す如く、この発明法においては先ず水平板(6)と停止板(8)とは、結合端部(6a),(8a)において水平板(6)の両端部に間頃(d)が残るよう結合端部(6a)(8a)相互を熔着する。

この後、第2図(A)拡大図に示す如く、T字板(7) (9)を相互に結束する。

この相互結束する方法としてはT字板(7)(9)のT字バー(7a)(9a)を相互に巻回する。

つまり、水平板(7)のT字バーが停止板(8)のT字板(9)を抱き込み、一方停止板(8)のT字板(9)のT字バー(9a)が水平板(6)のT字板(7)を抱き込むようそれぞれ結束する。

このようにして第2図(A)に示すような水平板(6)と停止板(8)を結合した後、第2図(B)に示す如くアングル材(10)を停止板(8)と水平板(6)の結合部(11)内方に直交状に挿入し、この挿入の後鉄線(12)を使用してアングル材(10)を停止板(8)に結束させる。

尚第2図(B)拡大図に示す如く、この結束時に鉄

線(12)は水平板(6)の下方に巻回されないように結束する必要がある。その理由は、雪止め金物を家屋の屋根上に設置する際に鉄線(12)が屋根に接して損傷するのを防止するためである。

このようにして雪止め金物が製造される。

この発明に係る雪止め金物の製造法によつて製造された雪止め金物は停止板と水平板の結合部内方にアングル材を結束するに、結束後の鉄線が水平板の下方に巻回されないようにしてなるから、屋根面に結束用の鉄線が接してこの鉄線が屋根面で損傷して使用中に破損するという欠点が生じない上、従来の如く補強リブを使用せず水平板及び停止板から切り起こしたT字板で相互に水平方向(A)の荷重を支えることとされているから水平板自身の長さも短くてすむ。

以上詳述した如くこの発明に係る雪止め金物の製造法は、製造工数並びに製造コストを削減できる上現場におけるアングル材の取り付け手間が削減でき、しかも水平板に対し停止板を略短くしその両端部に若干の間頃を残し結束用の鉄線が水平

板の裏面に巻回されないから使用中に結束用鉄線の破損によつて雪止め金物が破損するという恐れもない雪止め金物の製造法である。

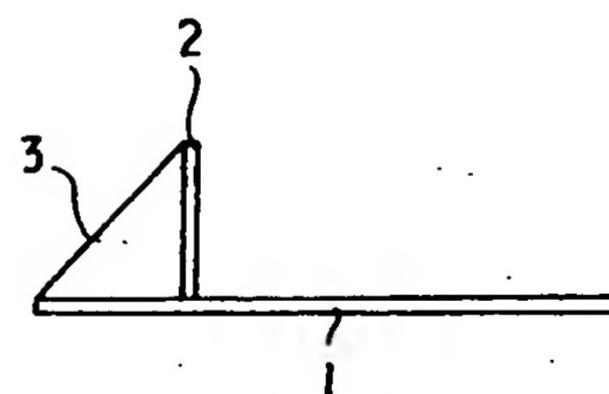
4. 図面の簡単な説明

第1図(A), (B)は従来例の説明図、第2図(A), (B)はこの発明法に係る雪止め金物の製造法の一実施例の外観説明図である。

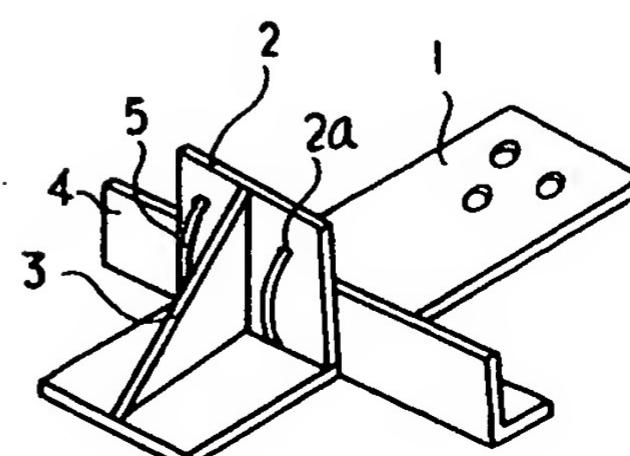
- | | |
|--------------|-------------|
| (6) ……水平板 | (6a) ……結合端部 |
| (7) ……T字板 | (8) ……停止板 |
| (8a) ……結合端部 | (9) ……T字板 |
| (10) ……アングル材 | (11) ……結合部 |
| (12) ……鉄線 | |

第1図

(A)



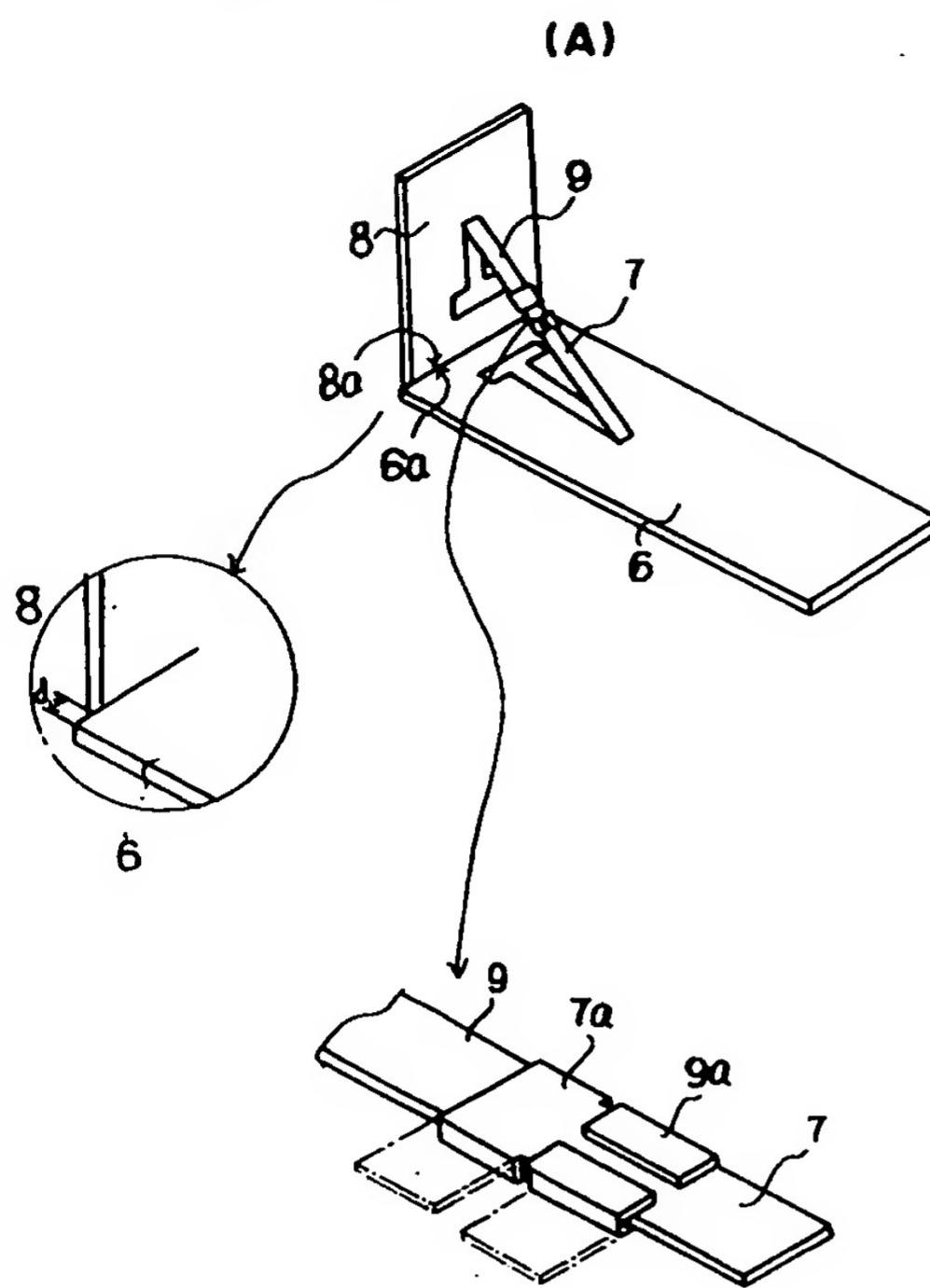
(B)



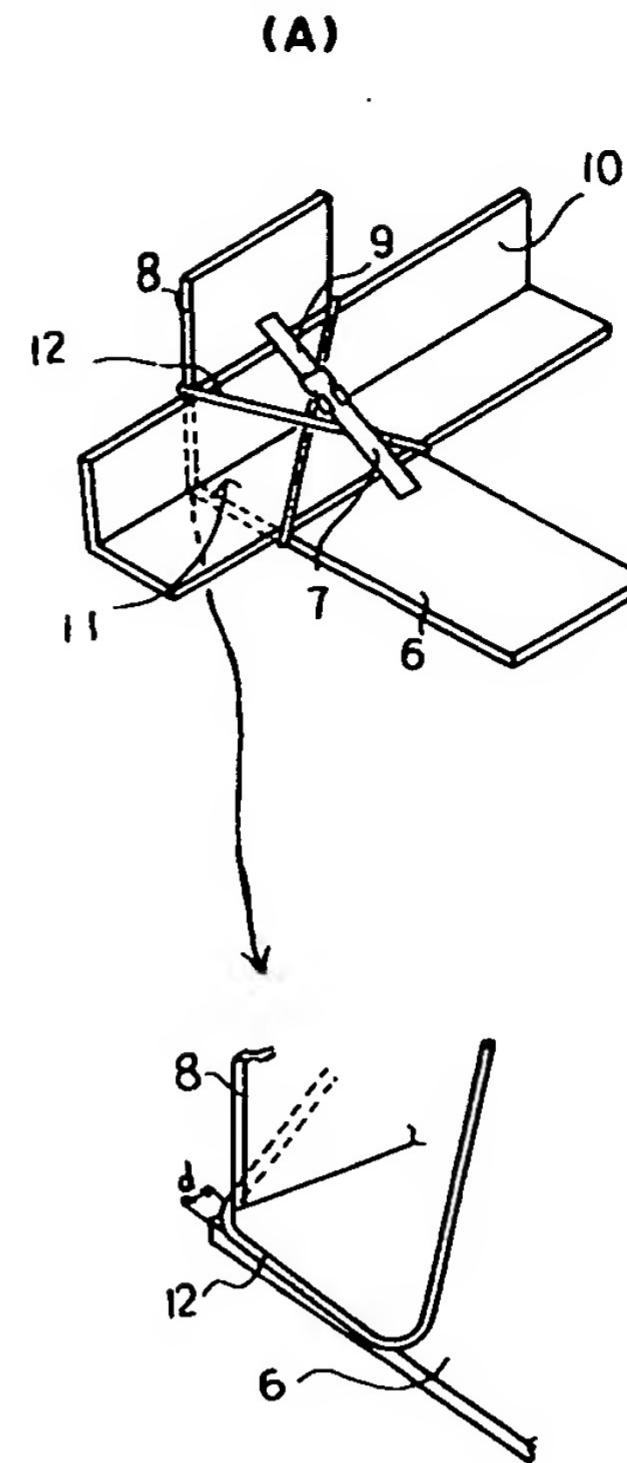
特許出願人 ナショナル住宅建材株式会社
代理人 井理士 清原義



第2図



第3図



手 税 補 正 昭和57年6月25日登録
昭和57年8月25日出力

特許庁長官職

1. 事件の表示

昭和57年特許願 第54117号

2. 発明の名称

ドアガード ハイカウト
省止め金物の製造法

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番12号

名称 (467)ナショナル住宅建材株式会社

代表者 山下茂男

4. 代理人

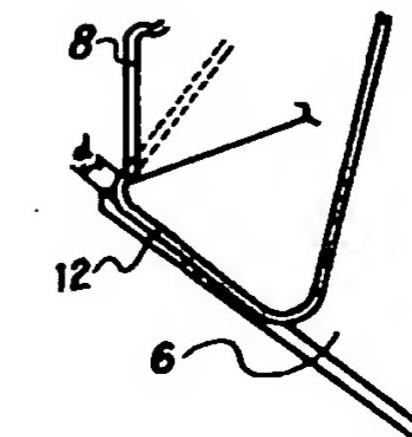
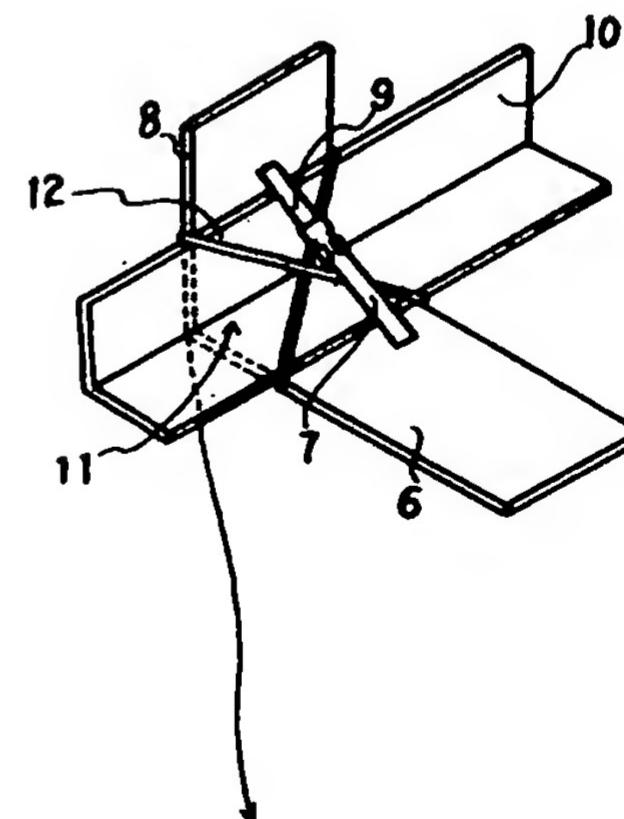
甲530

住所 大阪市北区堂島2丁目2番26号

第2永和ビル

氏名 弁理士(8207)清原義博

(B)



5. 補正命令の日付

昭和57年7月27日(予定日)

6. 補正の対象

「図面」



補正の内容

予3回(1)を削除し、
別添の如く第2図(B)を補正致します。